

## つくば 3E フォーラム会議に参加した印象・感想

筑波大学生命環境科学研究科 環境バイオマス共生学 浅田 遼

交通機関を地域の人に利用してもらえるようにしていくうえで、十勝バスの野村様がおっしゃっていた、「バス会社視点の問題と、利用者視点の問題が異なっていた」ということ印象的でした。バス会社の従来の目的とは「利用者がバスに乗ること」であるのに対し、利用者の目的は「目的地に行くこと」であり必ずしも「バスに乗ること」ではないということでした。

そのため、バス会社は利用者の目的に沿った戦略を立てるべきで、この考えから「目的地とバスの利用をセットに販売する」という案が生まれました。これらの事例から、問題解決への道において主観的な解決方法にとらわれず、第三者の視点に立って問題の解決法を模索することが大切だということ学びました。

また、東福様（富山市 環境部環境政策課）や谷口様（筑波大学システム情報工学研究科）の、“公共交通を軸としたまちづくり”に関するご講演を聞くなかで、

- ・異なる交通モードを結ぶ
- ・今まで競い合ってきた交通事業者どうしも連携を深める

ことが重要だということが分かり、公共交通機関を利用者に浸透させるには、それぞれの組織が個別で努力するのではなく、連携をしていくことが求められる時代になったのだと実感しました。